

令和 2 年 度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

令和 3 年 8 月
鹿角市教育委員会

「教育委員会事務事業の点検及び評価報告書」目次

教育目標

心豊かでたくましく郷土を愛しその発展に尽くす市民を育む教育を進める

I 学校教育の基本方針と重点目標

《担当課 総務学事課》

基本方針

豊かな心と自立する力を身に付けた幼児・児童・生徒を育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。

重点目標

(1) 確かな学力を身に付け、豊かな人間性と社会の中でたくましく生き抜く力の育成

方針・目標	1
成果指標	1
事務・事業の内容	
① 児童生徒学力向上対策事業	1
② みんな生き生き学校サポート事業	1
③ 外国語活動充実事業	1
④ 情報教育環境整備事業	1
⑤ GIGAスクール整備事業	2
⑥ かづの夢創造school事業	2
⑦ フッ化物洗口事業	2
⑧ 学校給食の実施（たらふくかづのの日）	2
⑨ ふるさと・キャリア教育推進事業	2
点検及び評価	2

(2) 児童生徒、保護者及び家庭から信頼され、地域コミュニティの核となる学校の創造

方針・目標	3
成果指標	3
事務・事業の内容	
① 学校パワーアップ事業	3
② 校務支援システム構築事業	3
点検及び評価	3

(3) 学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の向上

方針・目標	3
成果指標	3
事務・事業の内容	
① 学校教育懇談事業	3
② ふるさと生き生きネットワーク事業	4
点検及び評価	4

(4) 学校教育環境の整備・充実による安全性の向上と質の高い教育の実現	
方針・目標	4
成果指標	4
事務・事業の内容	
① 児童生徒派遣事業	4
② 通学対策事業	4
③ 学校施設整備事業	4
④ かつのこもれび教室事業	4
⑤ かつのこもれび相談事業	5
⑥ 奨学資金貸付事業	5
点検及び評価	5

II 生涯学習推進の基本方針と重点目標

《担当課 生涯学習課》

基本方針

市民一人一人が、自己の人格を磨き、心豊かで充実した生活を送ることができるよう、生涯にわたって、いつでも、どこでも学習できる機会を充実し、その成果を生かした、人づくり、地域づくりを目指す。

重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

方針・目標	6
成果指標	6
事務・事業の内容	
①-1 社会教育関係団体との連携	6
①-2 情報発信強化	6
②-1 みらい輝く人材育成事業	6
②-2 どごさでも出前講座	6
②-3 読書活動の推進	6
③-1 花いっぱい運動	6
点検及び評価	6

(2) 子どもたちの育ちと学びを支援する体制の充実

方針・目標	7
成果指標	7
事務・事業の内容	
①-1 地域学校協働活動推進事業	7
①-2 高校生ボランティアによる社会参画	7
②-1 家庭教育推進事業	7
点検及び評価	7

(3) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

方針・目標	8
成果指標	8
事務・事業の内容	
①-1 成人式の開催	8
①-2 青少年健全育成事業	8
①-3 青年レクリエーション事業（八幡平市民センター）	8
①-4 みらい輝く人材育成事業（再掲）	8
②-1 各市民センター事業	8
点検及び評価	8

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

《担当課 スポーツ振興課》

基本方針

市民一人一人が、自らスポーツに親しみ、スポーツを通じて心身ともに幸福で豊かな生活を営むことができる社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かした、活力に満ちた地域社会を目指す。

重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

方針・目標	9
成果指標	9
事務・事業の内容	
① チャレンジデーの開催	9
② タートルマラソンの開催	9
③ 総合型地域スポーツクラブの育成	9
点検及び評価	9

(2) スポーツによるまちづくりの推進

方針・目標	10
成果指標	10
事務・事業の内容	
① スポーツ拠点づくり推進事業	10
② 「スキーのまち」の推進	10
③ 「駅伝のまち」の推進	10
④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業	10
点検及び評価	10

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

方針・目標	11
成果指標	11
事務・事業の内容	
① 市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充	11
② 指導者の育成と活用	11
点検及び評価	11

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

方針・目標	12
成果指標	12
事務・事業の内容	
① スポーツ施設の利用促進	12
② スポーツ施設の整備・充実	12
点検及び評価	12

IV 芸術・文化振興の基本方針と重点目標

《担当課 生涯学習課》

基本方針

市民一人一人が、ふるさと鹿角の優れた文化に親しむ機会を充実するとともに、郷土の貴重な文化遺産の保護・保存と有効活用を図る。

重点目標

(1) 芸術文化活動の推進

方針・目標	13
成果指標	13
事務・事業の内容	
①-1 文化の杜交流館事業	13
②-1 芸術文化振興事業	13
点検及び評価	13

(2) 文化財の保存・伝承

方針・目標	14
成果指標	14
事務・事業の内容	
①-1 文化財保存事業（補助事業）	14
①-2 古文書整理	14
②-1 歴史民俗資料館事業	14
②-2 先人顕彰館事業	14
③-1 後継者育成	14
点検及び評価	14

(3) 世界文化遺産登録の推進

方針・目標	15
成果指標	15
事務・事業の内容	
①-1 世界遺産登録推進事業	15
①-2 大湯環状列石魅力アップ事業	15
①-3 大湯ストーンサークル館	15
点検及び評価	15

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

	<p>⑤G I G Aスクール整備事業 校内通信ネットワーク整備（小学校6校、中学校4校） 児童生徒1人1台端末整備 計2,098台 小学校 児童1,288台 指導者72台 中学校 生徒708台 指導者30台</p> <p>⑥かづの夢創造 school 事業 キャリアアップ講座等を各校で開催 中学校4校 全学年参加 開催総数9回</p> <p>⑦フッ化物洗口事業 実施人数：小学校1,250人（97.1%） 中学校 666人（94.1%）</p> <p>⑧学校給食の実施（たらふくかづのの日） 年5回実施</p> <p>⑨ふるさと・キャリア教育推進事業 ふるさと・キャリア教育コーディネーター配置 1人 夢探究プロジェクト（夢たん）の受入事業所数 176社 職場体験・職場見学 延べ506人参加 地域イベント等へのボランティア 延べ11人参加</p>
点検及び評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>・学力向上対策については、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに向けて、Q-U検査を取り入れた。これにより偏見のない学級集団アセスメントができるようになった。この結果を全職員で共有し、学級経営の改善を図ったり個別支援に生かしたりするための手立てを、さらに工夫・充実していく必要がある。</p> <p>・外国語活動充実事業では、それぞれのALTが教員と積極的に教材研究を行い、子どもたちを引き付ける授業づくりが行われており、外国語教育の充実が図られている。また、各学校の創意工夫により、ALTの配置時数の確保や文化交流の充実も図られている。</p> <p>・情報教育環境の整備については、新たに小学校5・6年生の社会・理科・外国語へ電子黒板を導入した。また、市内全小中学校の無線LAN環境の整備及び学習用端末の整備を完了した。普通教室や特別教室でICT機器を活用することで、個別最適な学びと協同的な学びを一体的に充実させ、主体的、対話的で深い学びの実現につながるものと期待できる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、夢の教室が実施されなかったり、職場体験・職場見学が制限されたが、関係機関と連携して個人職場体験を実施したり、受け入れ先事業所をさらに開拓したりするなどして、児童・生徒のニーズに応えることができた。中学校では、地域と連携したキャリアアップ講座を実施し、生徒が自分事として捉えることができる内容に工夫することで、人としての生き方にも触れることができた。また、学んだことを発信する場を設定することで、主体的な学びを実現することができた。</p>

(2) 児童生徒、保護者及び家庭から信頼され、地域コミュニティの核となる学校の創造

方針・目標	①特色ある教育の推進 ②信頼される学校づくり ③教職員の資質向上
成果指標	研修会等開催回数 (前年) 3校1団体4回 (実績) 2校1団体3回開催 (目標値) 全校開催
事務・事業の内容	①学校パワーアップ事業 研修会開催2校1団体176人参加 ②校務支援システム構築事業 名簿情報、出欠情報、指導要録作成、学校保健総合管理について電子化を図っている。リース期間：令和元年11月1日～令和6年10月31日
点検及び評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る ・パワーアップ事業では、特別な支援を必要とする児童・生徒への理解や支援の在り方についての研修や、主体的・対話的で深い学びの実現にかかわる話し合い活動の進め方についての示範授業及び講話など、貴重な研修機会が設定され、参加者は理解を深めることができた。また、他校教職員を参集範囲としたことにより、多くの教職員が短時間で深まりのある研修を受けることができたことは、この事業の良さであり効率的であると言える。

(3) 学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の向上

方針・目標	①学校・家庭・地域の連携 ②学校間の連携と協力 ③地域の人材・素材の活用
成果指標	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合 (小学6年生) (前年) 84.9% (実績) -% (目標値) -% (県平均) ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合 (中学3年生) (前年) 71.0% (実績) -% (目標値) -% (県平均) ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合 (小学6年生) (前年) 65.5% (実績) -% (目標値) -% (県平均) ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合 (中学3年生) (前年) 61.4% (実績) -% (目標値) -% (県平均)
事務・事業の内容	①学校教育懇談事業 学校教育懇談会 11月17日 協議：①鹿角市学校教育振興基本計画(案)について ②コミュニティ・スクールの導入について

	<p>②ふるさと生き生きネットワーク事業</p> <p>感染症対策のため一部内容の変更、制限をせざるを得ない学校もあったが、各校工夫しながら地域素材を活用した特色ある取り組みが行われた。</p>
点検及び評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>・学校教育懇談会では、地域代表者、PTA 関係者、保育園・学校関係者が、新たに始まる教育内容に対して、グループ協議を通して理解を深めた。</p> <p>・ふるさと生き生きネットワーク事業の実施により、身近であり貴重な素材でもある地域の人材や歴史・文化について具体的に学習することで、実感を伴いながらふるさと鹿角に対する理解を深めることができている。</p>

(4) 学校教育環境の整備・充実による安全性の向上と質の高い教育の実現

方針・目標	<p>①教育環境の充実</p> <p>②施設・設備の充実</p> <p>③一人一人を生かす教育の充実</p>
成果指標	<p>小中学校の再編</p> <p>(実績) 学校再編協議会 3 団体設立 (平成 28 年度～)</p> <p>(目標値) H31 年 4 月統合 末広・十和田小学校、草木・大湯小学校</p> <p>R 2 年 4 月統合 花輪第一・花輪第二中学校</p> <p>R 3 年 4 月統合 花輪北・平元小学校</p>
事務・事業の内容	<p>①児童生徒派遣事業</p> <p>小学校：スキー大会、 アンサンブルコンテスト県大会出場者に対する費用補助</p> <p>中学校：全県大会出場者に対する費用補助</p> <p>②通学対策事業</p> <p>通学路合同点検の実施</p> <p>8 月 3 日/6 日 小中学校通学路 (改善・要望箇所) 31 ヲ所</p> <p>令和 3 年 3 月 鹿角市通学路安全推進会議 (資料配付のみ)</p> <p>スクールバス・タクシー利用</p> <p>小学校 遠距離 5 校 95 人 準遠距離 1 校 37 人</p> <p>中学校 遠距離 3 校 66 人 準遠距離 3 校 70 人</p> <p>通学対策費補助金 (路線バス定期券購入費補助) 受給者</p> <p>小学校 遠距離 3 校 22 人 準遠距離 4 校 17 人</p> <p>中学校 遠距離 3 校 33 人 準遠距離 2 校 19 人</p> <p>③学校施設整備事業 (統合校舎 (花輪第二中学校) 大規模改造工事)</p> <p>建設工事 (建築主体工事) (株)石川組 (R2. 6. 4~R3. 2. 15)</p> <p>建設工事 (機械設備工事) (株)柳沢建設 (R2. 5. 22~R3. 2. 15)</p> <p>建設工事 (電気設備工事) (有)奥村電気工事 (R2. 5. 22~R3. 2. 15)</p> <p>④かづのこもれび教室事業</p> <p>入級申請 7 人</p>

	<p>⑤かづのこもれび相談事業</p> <p>対象：不登校傾向の中学生 36 人と小学生 11 人</p> <p>相談件数（延べ件数）：来所 92 件、電話 315 件、訪問 1 件 （合計） 408 件</p> <p>専門員による相談件数：カウンセリング 18 件、心理判定・報告 50 件</p> <p>⑥奨学資金貸付事業</p> <table border="0"> <tr> <td>貸付実績</td> <td>高校～高専前期 3 年</td> <td>10,000 円</td> <td>1 人</td> <td>120,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高専後期 2 年～大学</td> <td>30,000 円</td> <td>49 人</td> <td>17,280,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(合計) 50 人</td> <td>17,400,000 円</td> </tr> </table>	貸付実績	高校～高専前期 3 年	10,000 円	1 人	120,000 円		高専後期 2 年～大学	30,000 円	49 人	17,280,000 円				(合計) 50 人	17,400,000 円
貸付実績	高校～高専前期 3 年	10,000 円	1 人	120,000 円												
	高専後期 2 年～大学	30,000 円	49 人	17,280,000 円												
			(合計) 50 人	17,400,000 円												
点検及び評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路合同点検については、改善要望のある通学路に加え、統合により新たに通学路となる市道について、横断歩道設置の要望を行った。 ・小中学校の再編については、花輪北小学校と平元小学校の統合校舎として使用する旧花輪第二中学校校舎の大規模改造工事を実施し、柴平小学校として開校する体制を整えた。 ・多様な要因を背景とした長期欠席及び不登校傾向の児童生徒には、安心できる居場所を提供し、学校復帰に向けた足がかりとなる個別の学習指導や体験活動を行うこもれび教室が重要な役割を果たしている。 ・不登校傾向の児童生徒の状況を学校や保護者から継続的に聞き取ったことを基にし、臨床心理士による心理検査や関係機関との連携につなげることができているため、今後も個々の児童生徒の状況に応じたきめ細やかな支援を続ける必要がある。 															

II 生涯学習推進の基本方針と重点目標

1 基本方針

市民一人一人が、自己の人格を磨き、心豊かで充実した生活を送ることができるよう、生涯にわたって、いつでも、どこでも学習できる機会を充実し、その成果を生かした、人づくり、地域づくりを目指す。

2 重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

方針・目標	①生涯学習推進体制の充実 ②生涯学習機会の充実と人材育成 ③地域づくり活動の推進
成果指標	生涯学習・社会教育講座参加者数 (前年) 15,774人 (実績) 7,846人 (R2目標) 22,000人 図書館の貸出数 (前年) 123,583冊 (実績) 122,904冊 (R2目標) 130,000冊
事務・事業の内容	①-1 社会教育委員 10人、図書館協議会委員 8人、生涯学習奨励員 15人配置 ①-2 動画サイトに生涯学習課チャンネルの開設、インターネットを活用した情報発信強化 ②-1 みらい輝く人材育成事業 ・鹿角GENKIカレッジ 講座 4回 参加者 77人 ②-2 どごさデモ出前講座 45メニュー 開催数 68件 参加者 1,868人 ②-3 読書活動の推進 ・花輪図書館 利用者 70,447人 貸出数 76,459冊 ・十和田図書館 利用者 16,508人 貸出数 25,714冊 ・移動図書館 利用者 5,248人 貸出数 20,731冊 ③-1 花いっぱい運動 ・参加 62団体(花の種子、花苗の斡旋) ・全国、全県花だんコンクール参加 6団体
点検及び評価	□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ・社会教育関係事業は、コロナ禍により計画変更を余儀なくされたが、研修会等でインターネットを積極的に活用し、現代社会にあった事業の取入れなど学習の推進を図った。 ・どごさデモ出前講座は、コロナ禍により件数、参加者数も減少となったが、学校や保育園で多くのメニューを活用している。福祉系メニューの人気の高いほか、鳥獣被害防止、防災メニューの人気の高い。 ・図書館の入館者数は減少となったが、貸出数はほぼ前年度並みとなった。また、移動図書館車を更新し、愛称、車体カラーを市民公募により決定した。 ・花いっぱい運動は、申込団体数は4団体の減となったが、注文数は増加し各団体の花だん規模が大きくなってきているものと感じる。県コンクールでは今年度も特別優秀賞の受賞、モデル花だん認定団体があったほか、全国コンクールにおいて優秀賞を受賞した団体があった。

(2) 子どもたちの育ちと学びを支援する体制の充実

方針・目標	①地域教育力の向上 ②家庭教育支援体制の充実
成果指標	地域ボランティア活動への参加人数 (前年) 1,556人 (実績) 1,514人 (R2目標) 2,500人 学習機会・事業の提供数 (前年) 5事業 (実績) 4事業 (R2目標) 4事業
事務・事業の内容	①-1 地域学校協働活動推進事業 ○地域学校協働本部の設置(中学校区毎 花輪、十和田、八幡平、尾去沢) ・統括コーディネーター 1人、地域コーディネーター 8人の配置 ○協働活動(学校支援活動) ・学校支援ボランティア 参加者 1,185人 ○わくわく土曜教室 ・土曜教室ボランティア 参加者 54人 ふらっとおいでb(児童センター) 参加者 44人 トワダックのわくわく土曜教室(十和田図書館) 参加者 67人 KAZUNOロボリンピック 参加者 98人 ○子ども対象事業年間スケジュール表「ばらえてい いんふお」の発行 ①-2 高校生ボランティアによる社会参画 参加者 275人 ②-1 家庭教育推進事業 ・就学児健診時子育て講座 市内全小学校(7校) 保護者 182人 ・家庭教育講座 小学校 2校 中学校 2校 保護者 312人
点検及び評価	□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ・地域学校協働活動推進事業は、協働活動(学校支援活動)では、春の休校やボランティアの受入れ制限があったものの、夏以降は積極的に受入れた学校もありボランティア数が増加した。わくわく土曜教室では、中止となった教室もあったが、感染防止対策を講じるなど内容の見直しを行い実施した。 ・家庭教育推進事業は、子育て講座では、小学校入学に際しての子どもの生活や発達、保護者の心構えなどの講座に加え、専門的な講座として「絵本を通じた子育て」というテーマで行った。家庭教育講座では、4校の小中学校で実施し、いずれの講座も参加した保護者や学校から好評であった。

(3) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

方針・目標	①青少年健全育成の推進 ②多様な生涯学習活動の支援
成果指標	世代間等交流事業数 (前年) 33 事業 (実績) 14 事業 (R2 目標) 35 事業 地域活動への参加人数 (前年) 386 人 (実績) 131 人 (R2 目標) 300 人 地域活性化活動団体数 (補助事業活用団体) (前年) 1 団体 (実績) 0 団体 (R2 目標) 4 団体 老壮大学等登録者数 (前年) 1,524 人 (実績) 1,307 人 (R2 目標) 2,500 人
事務・事業の内容	①-1 成人式の開催 式典は中止。実行委員会による記念品を贈呈 (メッセージシート) 対象者 297 人 ①-2 青少年健全育成事業 ・声かけ運動の実施 (毎月 5 日) ・青少年育成鹿角市民会議 青少年を育てる市民のつどい ①-3 青年レクリエーション事業 (八幡平市民センター) ・バドミントン大会 2 回 参加者 31 人 ①-4 みらい輝く人材育成事業 (再掲) ・鹿角 GENKI カレッジ 講座 4 回 参加者 77 人 ②-1 各市民センター事業 ・老壮大学等登録者数 1,307 人 ・登録団体数 256 団体 (花輪 99、十和田 68、尾去沢 26、八幡平 63)
点検及び評価	□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ・成人式は、コロナ禍により式典が中止となったが、実行委員で代替案を考え、恩師のメッセージ動画を自分達で作るなど記憶に残る事業を創り出せた。 ・青少年健全育成事業は、声かけ運動では、地域から多くの参加があるなど着実に地域活動として定着している。会員の高齢化等による脱退があったが、地道な呼びかけにより企業会員や個人会員の加入につながった。 ・各市民センターでは、コロナ禍により事業実施が難しい状況の中で可能な範囲で工夫して行った。

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

1 基本方針

市民一人一人が、自らスポーツに親しみ、スポーツを通じて心身ともに幸福で豊かな生活を営むことができる社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かした、活力に満ちた地域社会を目指す。

2 重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

方針・目標	①生涯スポーツの充実 ②スポーツによる健康づくりの推進 ③スポーツボランティアの育成と活用
成果指標	週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 (前年) 50.3% (実績) 52.2% (R2目標) 60%
事務・事業の内容	①チャレンジデーの開催 市独自事業として実施 ②タートルマラソンの開催 【中止】 ③総合型地域スポーツクラブの育成 市内で3つのクラブが活動しており、地域住民を対象に子どもから高齢者まで、それぞれの志向やレベルに合わせたスポーツ教室などを実施
点検及び評価	□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ・気軽に参加できるスポーツイベントとして定着してきたチャレンジデーですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国一斉総参加イベントは中止となったが、個人や各家庭でできる範囲の参加とした。 ・幅広い年代が参加できるタートルマラソンは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。 ・総合型地域スポーツクラブの育成では、ウォーキング事業に補助しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月からの実施となった。

(2) スポーツによるまちづくりの推進

方針・目標	①「スキーのまち」の推進 ②「駅伝のまち」の推進 ③スポーツ拠点づくりの推進 ④子供たちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実
成果指標	スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (前年) 3,292 人泊 (実績) 1,124 人泊 (R2 目標) 3,600 人泊 共通シーズン券購入補助制度利用人数 (前年) 76 人 (実績) 76 人 (R2 目標) 80 人 浅利純子杯争奪鹿角駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 (前年) 76 チーム (実績) 【中止】 (R2 目標) 120 チーム
事務・事業の内容	①スポーツ拠点づくり推進事業 サマーノルディックスキー大会 【中止】 スポーツ合宿奨励補助事業 申請団体 22 団体 交付人数 339 人 ②「スキーのまち」の推進 全国ローラースキー選手権大会 【中止】 岩泉杯松橋杯争奪少年ジャンプ大会 参加者数 14 人 ジュニアスキーヤー共通シーズン券発行 発行人数 76 人 ③「駅伝のまち」の推進 十和田八幡平駅伝競走全国大会 【中止】 浅利純子杯争奪鹿角駅伝 【中止】 ④はばたけアスリート鹿角コーチング事業 陸上ジュニアクリニック 【中止】 ローラースキージュニアクリニック 【中止】 楽天野球教室 【中止】 ジュニアスキーヤー(スキー授業)指導者派遣事業 小学校 7 校、中学校 2 校 延べ 27 回 123 人 特別講師派遣事業 比内支援学校、ハニーハイム
点検及び評価	□目標を上回る □ほぼ目標どおり □目標をやや下回る ■目標を大幅に下回る ・スポーツ合宿奨励補助事業については、大会中止による影響が大きく、前年比の 3 分の 1 の実績となっている。 ・浅利純子杯争奪鹿角駅伝及び十八駅伝については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。 ・春から秋にかけての事業がほぼ中止となったが、冬期間における事業については、可能な限り実施することができた。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

方針・目標	①スポーツ団体の組織強化と活動の充実 ②指導者の育成と活用
成果指標	市体育協会の構成員数 (前年) 6,283人 (実績) 5,801人 (R2目標) 3,400人 ジュニアクリニック受講者の大会参加者数 (前年) 144人 (実績) 【中止】 (R2目標) 100人 特別講師派遣事業回数 (前年) 9回 (実績) 3回 (R2目標) 15回
事務・事業の内容	①市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 体育協会は、記念スポーツセンター、城山・毛馬内野球場の指定管理者となっているほか、委託事業を行い、効率的で安全な施設の管理を行っている。 ②指導者の育成と活用 スポーツ少年団社会体育化となり5年目となるが、資格制度の変更がり、それに伴う補助制度の改正を行い継続的な支援を行い資格取得者の増加を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止から、講習会などが中止となり、実績はなかった。
点検及び評価	□目標を上回る □ほぼ目標どおり □目標をやや下回る ■目標を大幅に下回る ・体育協会の自立支援については、現在のところ補助金及び指定管理料により運営されている状態にあるが、団体の性質上、自主事業による自立が難しいことから、引き続き支援していかなければならない。 ・指導者については、資格制度が変更されたことに伴い、資格を更新するための費用が今まで以上に発生することとなったが、体育協会及びスポ少本部と協力をして、資格取得に向けた取り組みを行う必要がある。

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

方針・目標	①スポーツ施設の利用促進 ②スポーツ施設の整備・充実
成果指標	スポーツ施設の利用者数 (前年) 170,301人 (実績) 128,654人 (R2目標) 280,000人
事務・事業の内容	①スポーツ施設の利用促進 市営野球場 城山、毛馬内 (4/10～11/10) 利用者数 4,485人 市民プール 花輪、谷内 【利用休止】 東山スポーツレクリエーションエリア 利用者数 69,421人 アメニティパーク 利用者数 28,924人 記念スポーツセンター 利用者数 15,470人 水晶山スキー場 利用者数 9,738人 市立ゲートボール場 利用者数 343人 大湯相撲場 利用者数 274人 ②スポーツ施設の整備・充実 花輪スキー場ジャンプ台スロープカー修繕 花輪スキー場冷暖房機器修繕 花輪スキー場ジャンプ台屋外照明修繕 花輪スキー場浄化槽修繕 アメニティパーク倶楽部ハウス暖房装置修繕 花輪スキー場ジャンプ台給水系統電動弁修繕 鹿角市記念スポーツセンター暖房装置修繕 花輪スキー場人工降雪機改修工事 花輪スキー場圧雪車用アンカー改修工事 水晶山スキー場第1ペアリフト改修工事 花輪スキー場防護ネット張替工事
点検及び評価	□目標を上回る □ほぼ目標どおり □目標をやや下回る ■目標を大幅に下回る ・施設の利用については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者数が減少したとみられる。 ・施設整備においては、国体関連の人工降雪機改修工事及び圧雪車用アンカー改修工事を行い、整備作業の安全及び効率化が図られた。

IV 芸術・文化振興の基本方針と重点目標

1 基本方針

市民一人一人が、ふるさと鹿角の優れた文化に親しむ機会を充実するとともに、郷土の貴重な文化遺産の保護・保存と有効活用を図る。

2 重点目標

(1) 芸術文化活動の推進

方針・目標	①芸術文化鑑賞機会の充実 ②芸術文化活動の振興
成果指標	年間で芸術鑑賞に親しんだ割合（前年）41.0%（実績）39.0%（R2目標）30%
事務・事業の内容	①-1 文化の杜交流館事業 <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 218,709人（R元：317,568人 前年比69%） ・文化ホール事業（自主事業） 3回 入場者 1,183人 <ul style="list-style-type: none"> 自衛隊演奏会 入場者 553人 鹿角市民俗芸能フェスティバル 入場者 238人 出演：毛馬内の盆踊（十和田）、湯瀬神明社先祓舞（八幡平）、からめ節金山踊り（尾去沢） 内容：公開収録として、後日YouTube配信 5周年記念事業 市民舞台劇 入場者 392人 ・館連携事業 コモデコ（季節デコレーション） 4回 ②-1 芸術文化振興事業 <ul style="list-style-type: none"> ・第49回鹿角市かるた選手権大会 参加者 35人
点検及び評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の杜交流館事業は、コロナ禍により多くの公演が中止や延期となったが、5周年記念事業の市民舞台劇が開催できたことで、出演者、スタッフの新たな挑戦と、今後の公演開催のあり方の一つとすることができた。 ・鹿角市かるた選手権大会は、参加者を県内に限定するなど感染防止対策をとりながら開催した。

(2) 文化財の保存・伝承

方針・目標	①文化財の調査・保存 ②文化財の活用 ③民俗芸能の保存・伝承
成果指標	学習機会・事業の提供数 (前年) 32 講座 (実績) 21 講座 (R2 目標) 31 講座
事務・事業の内容	①-1 文化財保存事業 (補助事業) ・声良鶏保存奨励金 (羽色体形大会) ・大日堂舞楽保存伝承事業費補助金 ・花輪祭の屋台行事保存修理事業費補助金 (大町) ①-2 古文書整理 ・古文書整理委員会 2 回 ②-1 歴史民俗資料館事業 ・入館者数 1,567 人 (R 元 : 1,619 人 前年比 97%) ・企画展、特別展 6 回 1,291 人 ・講座、講演 6 回 98 人 ②-2 先人顕彰館事業 ・入館者数 1,011 人 (R 元 : 1,486 人 前年比 68%) ・特別展示 「鹿角に病院を創った湯瀬勇七と小笠原達」 ・文化講演会 1 回 53 人 ③-1 後継者育成 ・八幡平盆踊り伝承 太鼓、踊り、唄の講習会 参加者 150 人
点検及び評価	□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ・文化財保存事業は、コロナ禍により祭典や行事が中止、縮小となったが、団体の保存伝承活動を支援した。 ・歴史民俗資料館は、民俗資料や歴史資料を展示公開し、関連したテーマで企画展や講座を開催するなど、前年度に並ぶ入館者数があった。 ・先人顕彰館事業は、コロナ禍により大きく入館者数が減少した。

(3) 世界文化遺産登録の推進

方針・目標	①大湯環状列石の世界文化遺産登録の推進
成果指標	特別史跡大湯環状列石の世界文化遺産登録 (実績)「北海道・北東北の縄文遺跡群」 イコモス現地調査実施
事務・事業の内容	<p>①-1 世界遺産登録推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推進 イコモス現地調査 (9月) ・秋田縄文遺跡世界遺産推進シンポジウム 参加者 203人 <p>①-2 大湯環状列石魅力アップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験教室 (JOMOラボ) 3回 参加者 20人 ・ガイドレベルアップ講座 4回 参加者 35人 <p>①-3 大湯ストーンサークル館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 13,627人 (R元:19,207人 前年比71%) <p>※毛馬内の盆踊を含む全国41件の重要無形民俗文化財で構成する「風流踊」の推薦書をユネスコへ提出 (ユネスコ無形文化遺産) (3月)</p>
点検及び評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>・世界文化遺産登録は、予定どおりイコモスによる現地調査が実施された。また、シンポジウムでは、コロナ禍により東京、秋田を結ぶオンライン開催となったが、上映会場の大湯ストーンサークル館をはじめ、多くの参加があるなど気運の醸成につながった。</p> <p>・受入れ体制の整備は、新たに市民団体がガイド・窓口業務を担うなど体制を強化したほか、講座を開催しながらガイドのスキルアップを図った。</p>

教育委員会事務事業点検評価（概要）

（根拠法令）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定による

（実施要綱）

鹿角市教育委員会事務事業点検評価実施要綱（平成26年1月6日教育委員会訓令第1号）による

（点検評価の対象）

令和2年度に教育委員会が実施した事務事業

（点検評価の実施日）

令和3年6月25日（金）

（点検評価委員）※五十音順

阿部 義弘 委員
石井 勲 委員
岩館 裕章 委員
田口 将 委員

（点検評価の結果）

・点検評価委員による外部評価

・・・Ⅲ スポーツ推進の重点目標（2）～（4）について、

「目標を大幅に下回る」から「目標をやや下回る」に1ランク格上げし「内部評価を承認」

項 目	目標を上回る	ほぼ目標どおり	目標をやや下回る	目標を大幅に下回る
I 学校教育の重点目標				
(1) 確かな学力を身に付け、豊かな人間性と社会の中でたくましく生き抜く力の育成	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 児童生徒、保護者及び家庭から信頼され、地域コミュニティの核となる学校の創造	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の向上	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 学校教育環境の整備・充実による安全性の向上と質の高い教育の実現	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
II 生涯学習推進の重点目標				
(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 子どもたちの育ちと学びを支援する体制の充実	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
III スポーツ推進の重点目標				
(1) 生涯スポーツの普及推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) スポーツによるまちづくりの推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 指導体制の確立と指導者の育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) スポーツ施設の利用促進と整備	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
IV 芸術・文化振興の重点目標				
(1) 芸術文化活動の推進	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 文化財の保存・伝承	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 世界文化遺産登録の推進	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合 計	0	10	4	0

点検評価委員よりいただいたご意見は次のとおりです。

点検評価の結果並びに委員の意見等を踏まえ、より一層効果的に成果が得られるよう創意工夫を凝らしながら事務事業を展開してまいります。

I 学校教育の重点目標

(1) 確かな学力を身に付け、豊かな人間性と社会の中でたくましく生き抜く力の育成

①児童生徒学力向上対策事業

【ご意見】	・Q-U検査の導入に伴い、実態調査に基づいた分析によって子ども達への個別支援を行っていくことは大変良いことだと思うが、先生達の取組状況を教えてほしい。
【ご意見 に対し】	・今年度からは、これまで中学校で行ってきたハイパーQ-U検査を小学校でも取り入れ、春と秋の2回実施し変移を比べることとしている。学校によって対応が違っていたので、校内研修を行い、共通認識により教員全員で指導にあたってもらうよう確認している。

④情報教育環境整備事業

⑤GIGAスクール整備事業

【ご意見】	・教師用デジタル教科書は授業でも使用しており、将来的には子ども達にもデジタル教科書が配付になると思うが、現在ほどの程度進んでいるのか。 ・児童生徒1人1台端末整備や校内通信ネットワーク整備が進んだことは素晴らしいことだが、子どもはもちろん、ICT機器を扱う先生達へのサポートもしっかり行っていただきたい。
【ご意見 に対し】	・児童生徒用のデジタル教科書とは、児童生徒が自分のタブレット端末でクラウド上の教科書データに各自がログインして使用するものである。文科省のデジタル教科書モニター事業に委嘱されている花中や十中では、子ども達がIDやパスワードを入力し動画を見たり自由に使いこなしていた。現在は、紙とデジタル教科書を併用している状況であり、無償譲渡や無償配付にならなければ予算的に市町村独自で準備するのはハードルが高いと思っている。 今後、各家庭でのネット環境が整備されれば、自宅でのICT機器を使用した学習も可能になると思われる。

(3) 学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の向上

②ふるさと生き生きネットワーク事業

【ご意見】	・令和3年度の新規事業「ふるさとかつの絆プラン事業」や「特色ある学校づくり推進事業」は、「ふるさと生き生きネットワーク事業」からの転換と捉えてよいか。 ・義務教育期間のうちに1回は市内の施設を見学したり農作業体験をすることで、地元愛の醸成や成人してからの仕事にも繋がる素晴らしい事業だと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。
【ご意見 に対し】	・「ふるさと生き生きネットワーク事業」の実施は県内でも珍しく、お褒めいただいております。米作りやりんご・桃の収穫、伝統芸能の継承等特色ある事業を実施してきたが、令和3年度から「特色ある学校づくり推進事業」にリニューアルし、校長のブランドデザインを実現するための事業として実施していくものである。 また、「ふるさとかつの絆プラン事業」は、小学校同士、中学校同士が連携し、学区を越えて子ども達が交流し合うことで顔見知りになり、これまで各々実施してきた活動を紹介し合い鹿角愛を醸成する事業である。尾中鉦山ガイドと八中大沼・後生掛ガイドの交流や農作業体験の交流、花輪ばやしと毛馬内盆踊りを教え合う等、地域資源を活用した今年度の目玉事業として2学期からの実施を考えている。

II 生涯学習推進の重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

①-2 動画サイトに生涯学習課チャンネルの開設、インターネットを活用した情報発信強化

【ご意見】	・動画サイトによる情報発信は大変評価できる。今後、他にも多様な活用が可能であると思うので、研究して行ってほしい。
【ご意見 に対し】	・新型コロナウイルス感染症の影響でいろいろな講座ができなくなると想定した時に、単純に中止ということでは終わらせたくなかったので、代わりに何ができるかを考えて動画配信に行きついたものである。 講座の代替のほか、文化財の動画はデジタルアーカイブのような副産物の成果も得られているため、今後も継続していきたい。

②-2 どごさデモ出前講座

【ご意見】	・業務の合間に市職員に出前してもらい、市民として大変有り難い。内容も映像を使ったりわかりやすく工夫されていて評価できる。
-------	--------------------------------------------------------------

②-3 読書活動の推進

【ご意見】	・あおぞらぶっく号の導入もあって移動図書館の利用が増加しており、移動手段がない年配の方など、有り難さを感じている人が多いのではないかと。費用面もあるが、需要があるのなら台数を増やしてもよいのではないかと。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 子どもたちの育ちと学びを支援する体制の充実

②-1 家庭教育推進事業

【ご意見】	・内容も充実しており保護者にも大変好評である。今後も保護者のニーズを捉えながらさらに充実させ継続実施していただきたい。
-------	-------------------------------------------------------------

III スポーツ推進の重点目標

(2) スポーツによるまちづくりの推進

②「スキーのまち」の推進

③「駅伝のまち」の推進

【ご意見】	・市町村による競技を絞った強化対策支援は稀であり大変有り難いことであるが、継続する中でどのように評価しているのか。 ・貴重な予算を有効活用するため、強化対策委員会等ともっと課題について議論して、底辺（競技人口）がなくなってしまう危機感を持って事業にあたっていく必要があると感じている。
【ご意見 に対し】	・スキー3種目と陸上長距離部門の強化対策として全国大会や世界ジュニア等の参加選手を育成し、成績も伸びてきていると感じているが、競技する選手の減少が課題となってきたので、競技団体等と連絡を密にしながら進めていきたい。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

②指導者の育成と活用

【ご意見】	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の社会体育化に伴う現状について、学校側はどのように捉えているのか。 ・クラブチーム化に関しては、何か問題があった時に誰が注意するのかが非常に曖昧な状況になりつつあるので、やはり市教委が柱となり学校側・スポ少側と連携した上で見届けや指導を行うシステムが必要となってきたのではないかと思います。
【ご意見 に対し】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍におけるスポ少活動については、市の感染症対策・方針等を踏まえて対応していただき、問題なく実施できており、良好な関係で意思疎通や教育委員会との連携もとれていると思われる。 一方で、スポ少に加入していないクラブチームの活動については、スポ少の規約が及ぶ範囲ではないため、学校からの指導は難しいのではないかとという声がある。

(2) スポーツによるまちづくりの推進

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

【ご意見】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中での事業展開は非常に難しかったのではないかと思います。学校教育、生涯学習、スポーツと人を相手にしているので、今回もろに感染症の影響を受けており、一生懸命業務を遂行した上での延期や中止もある中で、数値的な評価だけでは大変難しく、この機会に数値のみでなく求める方針や目標等、より本質の評価をしていってはどうか。 ・スポーツ部門は、4項目中3項目が「目標を大幅に下回る」という自己評価だが、職員は業務をしていないわけではない。ハード面も100%整備できているし、収容人数等を制限したりいろいろ工夫しながらなので、参加者数や利用者数が減少するのは当然であり、(2)、(3)、(4)の「目標を大幅に下回る」を全て「目標をやや下回る」に1ランク格上げしてもよいのではないかと。
【ご意見 に対し】	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の業務内容によって評価を如実に指標に頼らざるを得ない状況のものもあり、学校教育や生涯学習関係は、悩みながら工夫して事業転換したり、いろんな面でフォローできた現場の先生達の努力があつての「ほぼ目標どおり」であるが、スポーツ関係はどうしても大会やイベントの実施が評価指標になっているので、現段階ではこのように評価した。 職員は通常予算や労力を使い試行錯誤しながらそれまでの準備をしてきたが、感染症に左右され結果的に中止になってしまったということで、選手や市民、児童生徒の安全を優先せざるを得ない状況だったことは理解していただきたい。 昨年度できなかったことを糧とし、今年度はwithコロナの大会として着実に実施しながら国体やインカレ等のビッグ大会開催に結び付けていきたい。

IV 芸術・文化振興の重点目標

(2) 文化財の保存・伝承

②-1 歴史民俗資料館事業

②-2 先人顕彰館事業

【ご意見】	・どちらも入館者数はそれほど多くはないが、新企画や内容を工夫して非常に良いものを発信しており、取り組みは評価できる。
-------	------------------------------------------------------------

(3) 世界文化遺産登録の推進

①-1 世界遺産登録推進事業

【ご意見】	・世界文化遺産登録は、長い間諦めずに取り組んできた結果であり敬意を表したい。学芸員による文化的なものを下地にした説明等が遺跡の評価を高めることに繋がると思うので、学芸員を増員してもらえれば有り難い。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

【その他の意見】

【ご意見】	・部活動指導員の状況と、今後の部活動指導のあり方への対応についてどのように考えているのか。 ・体制づくりをどのように整えていくのが課題だと思うので、時間をかけて検討してほしい。
【ご意見 に対し】	・教職員の多忙化解消を目的として、令和2年度から花輪中陸上部と十和田中バスケットボール部に各1名配置しており、子ども達が専門的な技術指導を受けられているほか、教員の時間外勤務時間数は各校ともおよそ100時間の減少となり効果が出ていると考えている。 一方で、男女両チームを指導しているバスケ部については、練習場所や練習試合のスケジュール調整等が難しく保護者等の期待に十分に添えなかったという反省点を踏まえ、今年度は、事前に部活動指導員の趣旨を保護者に説明するとともに、部活動指導員の資質向上を図るための研修を行っている。 今後は、このまま指導員が増えていくわけではなく、地域でのスポーツクラブ活動へ移行していくことが予想されるため、指導員配置の成果と課題を精査して、今後の部活動指導のあり方に生かしたい。

【ご意見】	・コロナ禍においても、感染症対策等をしながらいろいろ工夫して事業を実施しているの、なんとかこの状況を継続していただきたい。
-------	---------------------------------------------------------------